

ミッションステートメント・行動指針から学ぼう

第1回：ちゃ どう じん茶道人

このコラムでは、毎回、三徳庵および大日本茶道学会のミッションステートメントや行動指針にあるキーワードについて、田中仙堂ちゅう せん とう副会長が、わかりやすく解説します。第1回目のキーワードは“茶道人”です。

「ご趣味は？」という質問が、よく知らない相手との会話のきっかけに使われるように、多かれ少なかれ、趣味はその人の一部であると見なされていると言っても、過言ではないでしょう。例えば、ゴルフは紳士のスポーツと言います。しかし、現在、ゴルフを楽しんでいる人は、紳士になるためにゴルフを行っているわけではありません。

茶を学び始める動機も様々であると思います。我慢しているとお菓子が食べられる唯一の課外活動であったからという方から、外国に行って日本の文化について質問されて困ったからと、その動機にも随分幅があるのではないのでしょうか。はじめから、自宅で茶事を催したいと、志望する方は少数派で、点て方は習わなくても、茶席で恥をかかない飲み方だけを教えて欲しいという人も少なくありません。このように茶を学びたいというきっかけは人それぞれなのです。

そこで、“茶道人”であるのかないのかを分ける基準がど

こにあるのか、ということを考えると、どこまで茶道の技術や知識を知っているのか、というところに求めても見つかりません。いくら、術や知識を持っても、それが“職業的に必要な技能だから身につけたのであって、職業と関係なくなったら無用の物だ”、と考える茶人がいたとしたら、その人は、“茶道人”ではありません。一方、技術や知識は未熟でも、茶道と関わることによって自分の人生を充実させていくことができると確信を持っている人は、立派な“茶道人”といえることができる、と考えています。

“あの先生のようにになりたい”と憧れて茶を習い始めた、という話を聞くとうれしくなります。その先生は、単に技術や知識が優れているだけではなく、“茶道人”としての志を持っているから、見知らぬ人を惹きつけているのでしょう。

“お茶と関わっていたことによって、人生が充実している”と思える時こそが、“茶道人”であることの本当の幸せを実感する時なのです。

ミッションステートメント

三徳庵の使命

～ 三徳庵がしなければならないこと ～

私たちは、茶道文化の発展と振興に貢献するため、日本特有の文化遺産である茶道を、流儀を超えて、さまざまな事業を通じ、すべての国の人々に広く普及し続けることを使命とします。

大日本茶道学会の使命

～ わたしたちがしなければならないこと ～

大日本茶道学会は三徳庵のもと、伝統をふまえ、時代時代のライフスタイルに合わせつつ、茶道を、最も先進的かつ柔軟な発想で国内外に普及し、茶道の理念を日々実践する人々、茶道人ちや どう じんを育成します。

わたしたちは、自然な動きを重視し、理論に基づいた美しい点前の全てを公開します。

そして、茶道を学ぶことを通じて、人の心が豊かに育まれる機会と、日本の茶道文化に対する造詣を深める環境を創出・提供します。

行動指針

私たちの5つの約束 (5C)

1. わたしたちは、茶道人として、いつも誠意をもって接します (Courtesy)
1. わたしたちは、いつも、茶道の精神で力を合わせ行動します (Cooperation)
1. わたしたちは、笑顔を絶やさず、いつも心で聴き、応えます (Communications)
1. わたしたちは、ゆたかな発想で、いつもひるまず挑戦します (Challenge)
1. わたしたちは、いつも、ひとつ上を目指し、自らを磨きます (Cultivation)

と一緒に素敵なお茶人をめざしましょう

「と一緒に素敵なお茶人をめざしましょう」のコラムでは、田中仙融教場長が、お茶を学ぶ上で身につけておくべき、ちょっとしたポイントをご紹介します。毎回、皆さんにあらためて振り返っていただきたい内容を選びます。第1回目の今回は、「茶席での基本マナー その1：物を大切に扱う心構え」です。

茶席での基本マナー

その1

物を大切に扱う心構え

教場長 田中仙融



新たにこのコラムを開始するにあたり、今まで、古参の先生方がお話ししてくださった中には、茶席での対応だけに限らず、私たちの日常生活においても、とても参考になる素晴らしいヒントがたくさん隠れているのだということを、あらためて考えてみました。そのような先生方の教えを皆さんに大切に伝え、そして守っていくことが、私の役割の一つでもあると思い、この“と一緒に素敵なお茶人をめざしましょう”のコラムを担当させていただきます。

さて、いよいよ春真っ盛り、お茶会の多くなるシーズンがやってきました。以前、「もしも大事なお道具に粗相があるといけないから、懐中する菓子切も、金属のものを避けるという心配りも大切ですよ」と、ある先生から伺ったことがあります。たしかに金属製のものが道具の上に落ちれば、道具を損ないかねません。このお話を伺ったときに、指輪や根付け、髪飾りなどを身に付けて茶席に入らないという原則と同じ考え方で、道具を大切に扱うための配慮なのだと感じました。

物を損なわないという観点から考えると、茶席に入る際に、手荷物をたくさん持って入ってしまうと、茶席を損なうことになりかねません。本来は少人数しか入らない茶席に、大寄せの茶会では大勢の人が入り、壁にずっと寄って座ることになります。その際にご自分の後方に荷物を置いてしまうと、いくら腰張りがしてあるとはいえ、壁などを傷める要因になってしまうかもしれません。数寄屋袋などにコンパクトにまとめて、必要な物だけを持って席に入るといことも、スマートな茶人への第一歩なのかも知れませんね。

